

インフルエンザ定点(小児科定点を含む)

インフルエンザ: 1959件(前月比33.8, 前年同月比3.0)でした。前月比が著しく増加しており、例年通りに今後とも増加するものと推測されます。前年同月比も3.0と増加しており、例年よりも流行入りが早いようです。今後の発生動向に特に注意が必要です。特に、菊池(75.9)、人吉(33.6)、有明(31.0)、山鹿(25.0)、宇城(24.3)が高くなっています。

小児科定点

※平成25年1月から、定点医療機関数の見直しに伴い、定点医療機関が48医療機関から50医療機関に増えました。

(全体傾向) 7011件(前月比2.6, 前年同月比1.2)であり、感染性胃腸炎3331件(前月比2.9, 前年同月比1.0)、インフルエンザ1959件(前月比33.8, 前年同月比3.0)が大きく占めています。前月比はインフルエンザ、感染性胃腸炎の増加を反映し、増加しています。前年同月比は大きな変化はないようです。

(疾患別傾向)

1. RSウイルス感染症: 320件(前月比0.8, 前年同月比1.3)でした。10月をピークとして、以後は連続して減少しています。例年より高い値で推移しているようですが、今後は徐々に減少していくものと推測されます。人吉(15.3)、菊池(11.6)、宇城(11.0)が高くなっています。
2. 咽頭結膜熱: 80件(前月比1.7, 前年同月比0.3)でした。例年よりは低い値で推移しているようですが、前月比1.7と12月は増加しています。菊池(6.8)が高くなっています。
3. A群溶連菌咽頭炎: 397件(前月比1.6, 前年同月比0.7)でした。前月比1.6であり、12月は増加しています。菊池(17.8)、宇城(10.5)、人吉(10.3)と高くなっています。
4. 感染性胃腸炎: 3331件(前月比2.9, 前年同月比1.0)でした。8月からは連続して増加しており、12月は前月比2.9と特に高くなっています。前年同月比は1.0であり、例年並みのようです。菊池(153.2)、山鹿(135.5)、有明(123.0)が特に高くなっています。
5. 水痘: 239件(前月比1.1, 前年同月比0.6)でした。12月は例年よりは低い値となっているようです。菊池(12.4)、八代(10.3)が高くなっています。
6. 手足口病: 285件(前月比1.5, 前年同月比1.3)でした。例年並に推移しているようです。人吉(18.0)、菊池(12.6)が多くなっています。
7. 伝染性紅斑: 7件(前月比1.2, 前年同月比0.9)でした。平成26年度は大きなピークを認めることなく、例年と同様に低い値で推移しており、12月も大きな変化はありませんでした。
8. 突発性発疹症: 132件(前月比0.8, 前年同月比1.0)。前月比、前年同月比とも大きな変化はなく、例年と同様に推移しているようです。
9. 百日咳: 1件(前月比-、前年同月比-)と少ない値で推移しています。
10. ヘルパンギーナ: 42件(前月比1.5, 前年同月比2.2)でした。例年通りに7月をピークとして連続して減少しています。

11. 流行性耳下腺炎: 57件(前月比1.3, 前年同月比9.5)でした。前年同月比は9.5と高くなっていますが、前年は例年より低い値で推移していたことを反映しているものであり、例年並みの値のようです。人吉(14.0)が高くなっています。

眼科定点

1. 急性出血性結膜炎: 報告はありません。
2. 流行性角結膜炎 : 報告数36件(前月比 0.9、前年同月比 0.5)と減少しています。
地区別では熊本33件、八代1件、有明2件の報告です。
年齢別で20~30歳代に発症のピークがあるのは変わりありません。
平成26年は1~3月に流行の兆しが見られましたが、その後は12月まで減少の一途をたどり比較的落ち着いた1年でした。ここ数年の傾向から、夏に多いという概念が変わりつつあるようです。

STD定点

※平成25年1月から、定点医療機関数の見直しに伴い、定点医療機関が13医療機関から16医療機関に増えました。

1. 性器クラミジア感染症: 報告数 41件(前月比 0.8、前年同月比 0.7)で、前月比、前年同月比、ともに減少しています。男女別は、男性12件、女性29件で、女性に多く見られています。年齢別は、女性は15~29歳に23件と多く、男性では30~34歳に4件と多く見られています。地区別は、熊本25件と圧倒的に多く、次いで八代6件、有明・御船3件、菊池・宇城2件でした。
2. 性器ヘルペスウイルス感染症: 報告数 21件(前月比 1.3、前年同月比1.6)で、前月比5件、前年同月比8件増加しています。男女別は、男性7件、女性14件と女性に多く見られています。年齢別は、女性は10~70歳以上と低年齢化し、幅広い年齢層に広がっていますが、男性は25~44歳となっています。地区別は、熊本が11件と多く、次いで八代4件、菊池3件、御船・有明・宇城各1件でした。
3. 尖圭コンジローマ: 報告数は6件(前月比 0.8、前年同月比0.9)で、前月比2件減少し、前年同月比は1件減少しています。男女別は、男性3件、女性3件です。年齢別は、男性が幅広い年齢層で見られるのに対し、女性は20~24歳に集中して見られています。地区別は、熊本3件、御船・八代・宇城各1件でした。
4. 淋菌感染症: 報告数は20件(前月比1.8、前年同月比2.2)で前月比、前年同月比ともにほぼ倍増しています。男女別は、男性に16件と多く見られています。年齢別は、男性は20~39歳に12件と多く、女性は15~24歳の若い層に見られています。地区別は、熊本が16件と圧倒的に多く、次いで有明4件でした。

基幹定点

(月報分)

1. メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症: 報告数20件(前月比 1.0、前年同月比 0.7)でした。
2. ペニシリン耐性肺炎球菌感染症: 報告数4件(前月比 1.3、前年同月比 0.4)でした。
3. 薬剤耐性緑膿菌感染症: 報告数0件(前月、前年同月に同じ)でした。

(週報分)

1. 細菌性髄膜炎: 報告数1件(前月比 1.0、前年同月比 +1)でした。
2. 無菌性髄膜炎: 報告数1件(前月比 1.0、前年同月比 1.0)でした。
3. マイコプラズマ肺炎: 報告数9件(前月比 0.8、前年同月比 2.3)でした。
4. クラミジア肺炎: 報告数1件(前月比 +1、前年同月比1.0)でした。
5. 感染性胃腸炎: 報告数1件(前月比 1.0、前年同月比 1.0)でした。

届け出対象感染症

- 1類感染症: 報告はありませんでした。
- 2類感染症: 結核:21件
- 3類感染症: 腸管出血性大腸菌感染症:1件
- 4類感染症: 日本紅斑熱:1件
つつが虫病:1件
レジオネラ症:2件
重症熱性血小板減少症候群:1件
- 5類感染症: 後天性免疫不全症候群:1件
侵襲性肺炎球菌感染症:4件
水痘(入院例):1件